

■RA研究会セッション

私大の研究力強化への新たな取組

～国公立との違い、私大だからできるユニークな取組～

早稲田大学の研究力強化の取組

早稲田大学 研究戦略センター

教授 松永 康



Waseda Vision 150 (2012-) : 20年後を見据えた中長期計画

ビジョン② 世界の平和と人類の幸福の実現に貢献する研究

◆10学術院体制

<文系>

- ・政治経済
- ・法学
- ・文学
 - 文学、文化構想
- ・商学
- ・社会科学総合
- ・国際

<理系>

- ・理工
 - 基幹理工
 - 創造理工
 - 先進理工

<文理複合系>

- ・人間科学
- ・スポーツ科学
- ・教育・総合科学

13学部 24研究科

【基軸2】

◆未来をイノベートする独創的研究の推進



核心戦略

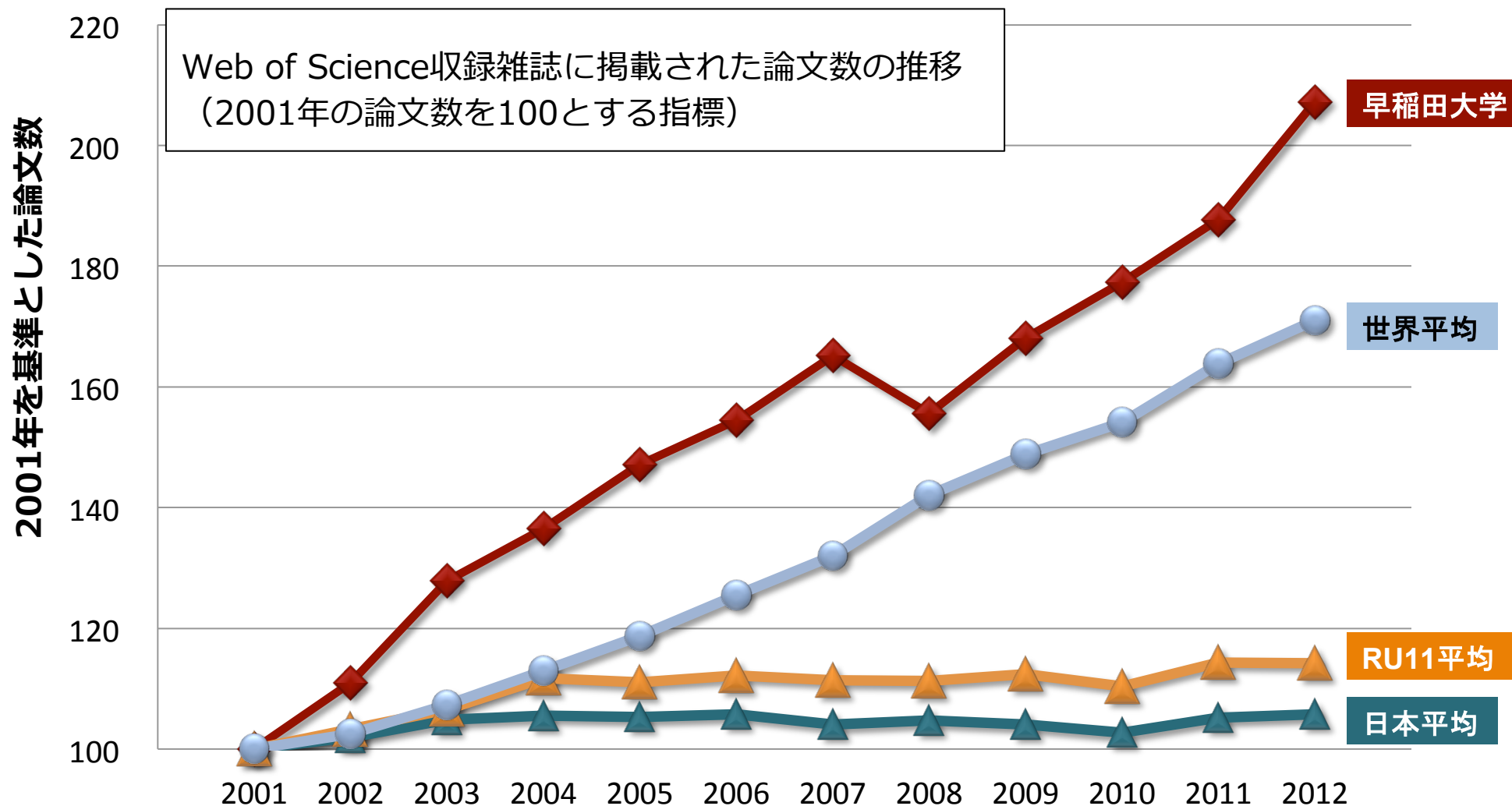
- ◆独創的研究の推進と国際発信力の強化
- ◆世界のWASEDAとしての国際展開
- ◆新たな教育・研究分野への挑戦

国際研究大学へと発展するため、研究組織や支援体制の構築、研究の国際発信の強化などを行う



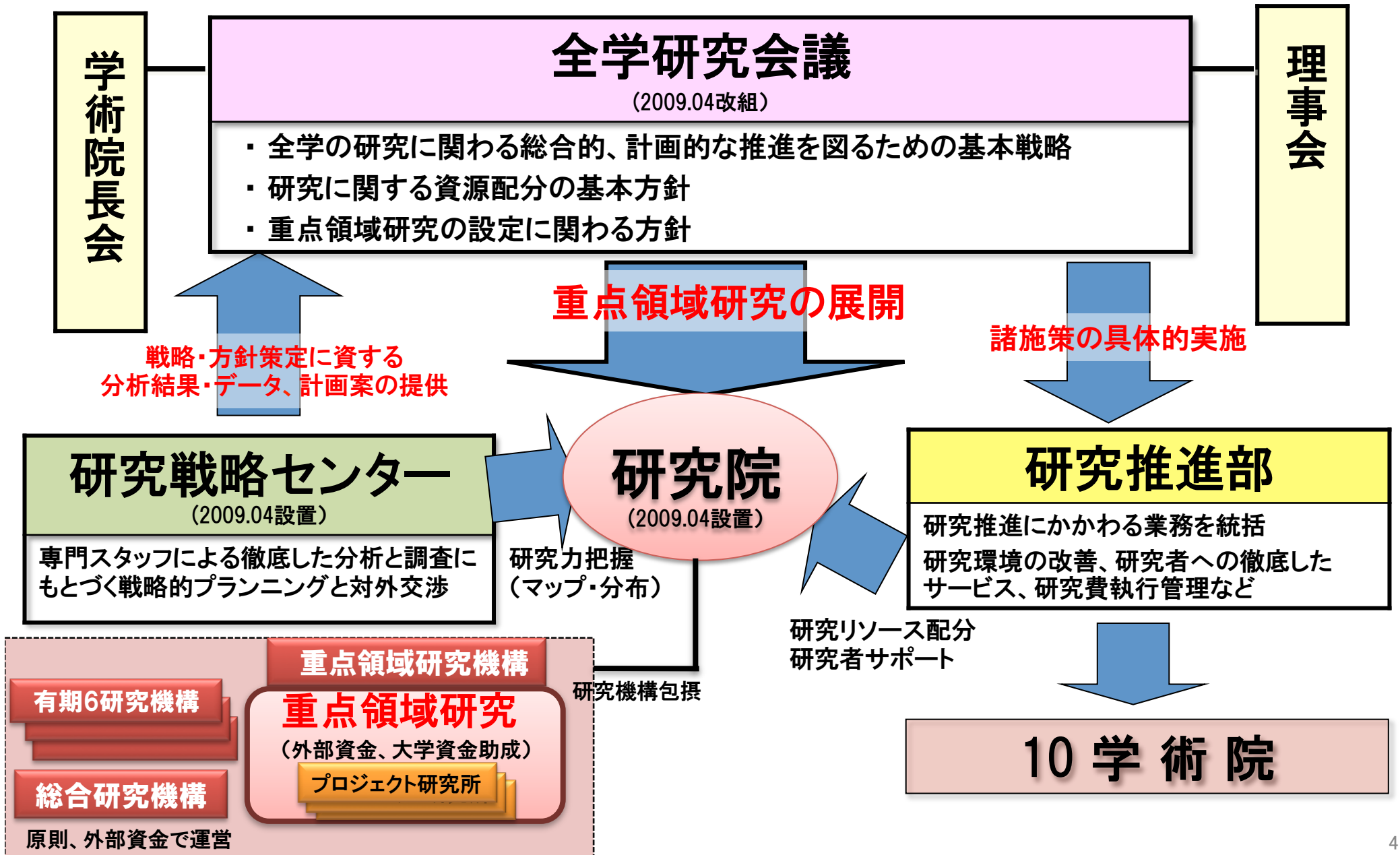
<受入研究費>
 96億円 ⇒ 200億円
 (収入の20%)
 学費に依存しない自立的な研究支援体制の確立を目指す

研究力伸長を表す論文数の増加率

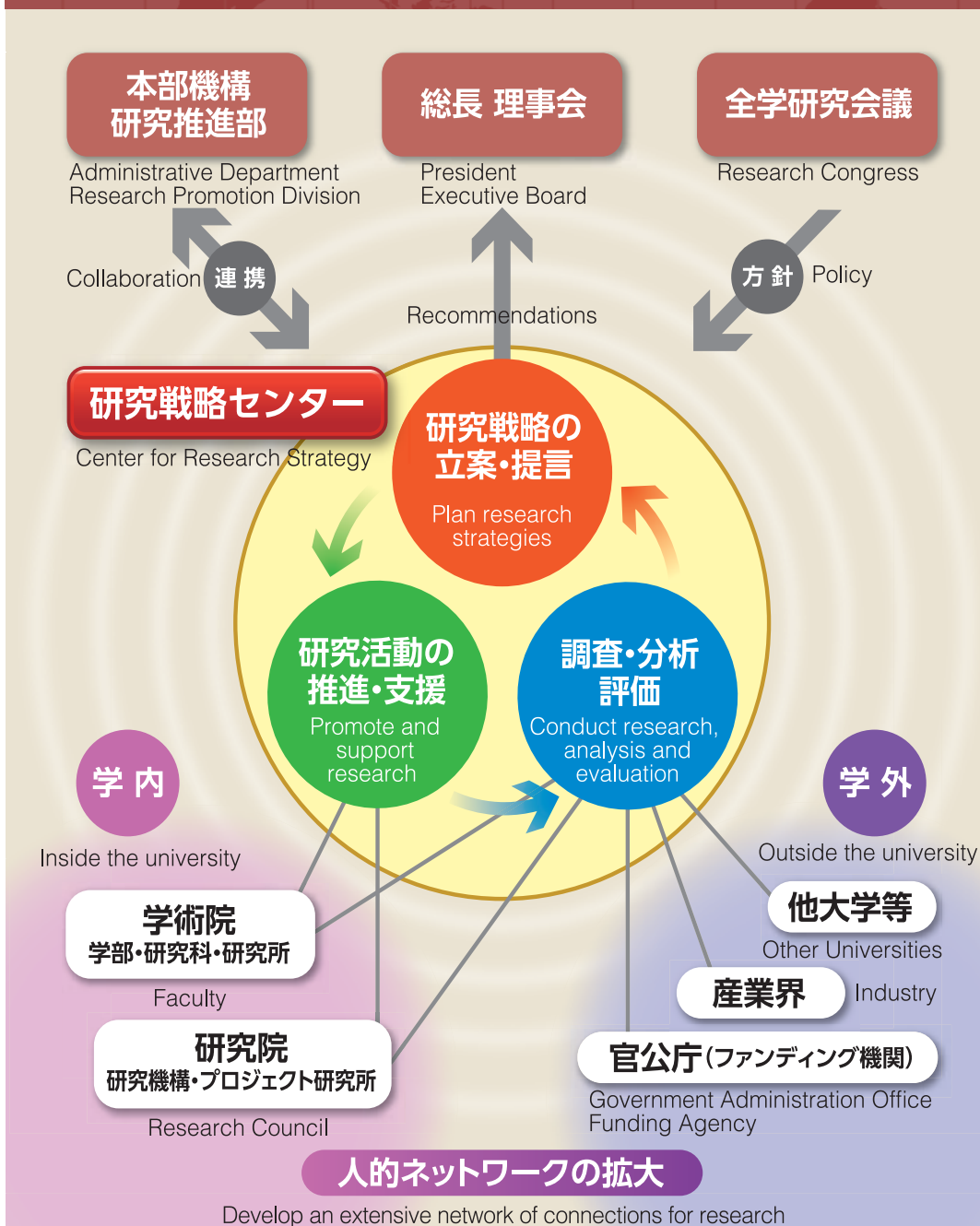


NISTEP「研究論文に着目した日本の大学のベンチマーキング 2012」に基づき、Thomson Reuters社Web of ScienceよりInCitesを用いて独自に集計。対象データベース(Science Citation Index Expanded, Social Science Citation Index, Arts & Humanities Citation Index)、期間2001年1月1日～2012年12月31日、全てのドキュメントタイプ(Article, Letter, Proceedings Paper, Review等)で集計

戦略的研究推進体制に改変 (2009-)



研究戦略センター (2009-)

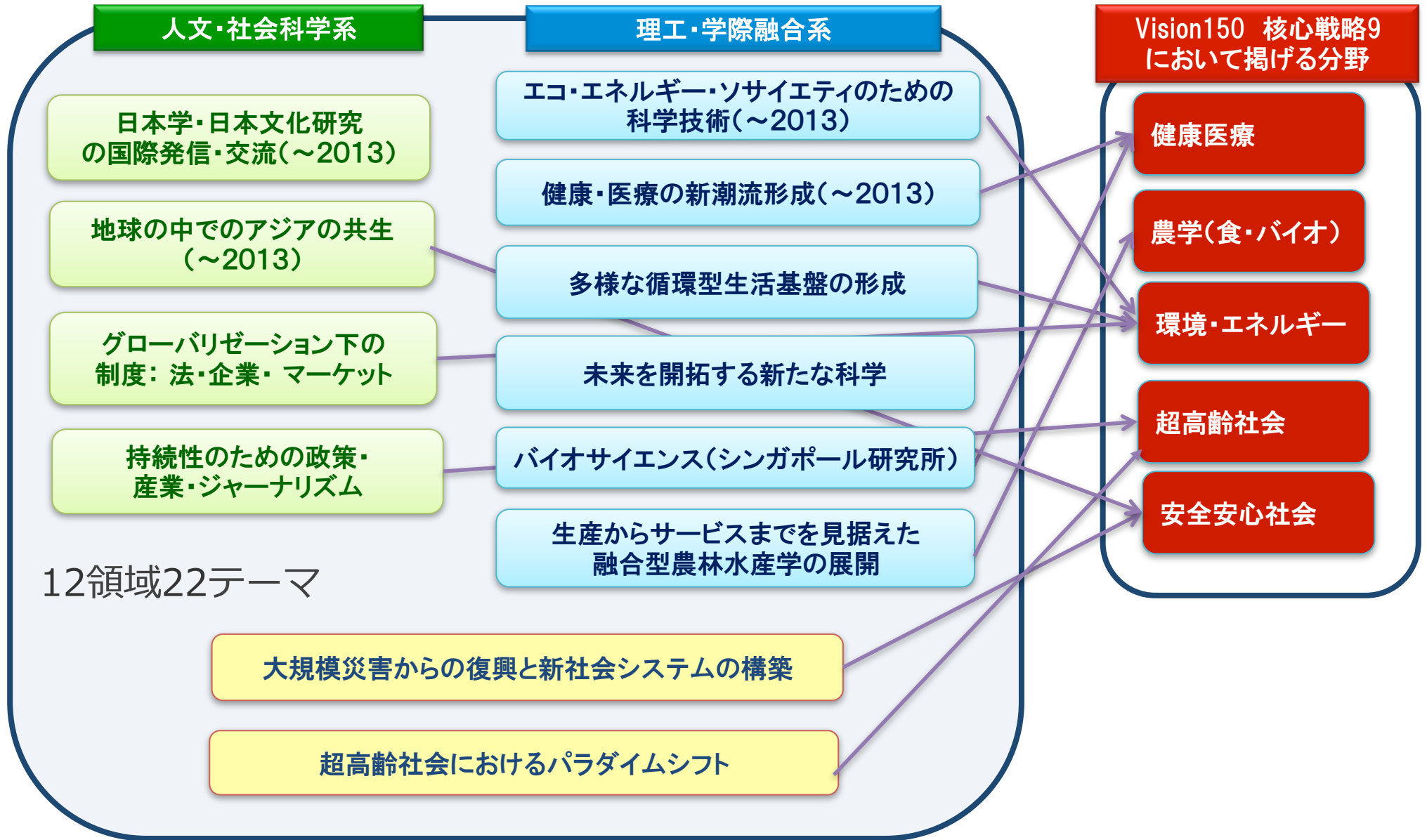


- ◆ 所長 棟近雅彦・教授
- ◆ センター員 小林直人・教授(副所長)
- 中島一郎・教授
- 松島裕一・教授
- 松永 康・教授
- 澤谷由里子・教授

- URA教員 2013～
- 橋本和夫・教授
- 枝川義邦・教授
- 古賀康之・准教授
- 丸山浩平・准教授
- 島岡未来子・講師
- 一之瀬貴・講師

- ◆ 事務スタッフ 高木祐治・事務長
- ほか3名

重点領域：国際競争力ある自立・持続的研究拠点の形成 (09-13, 14-)



GCS研究開発センター (2011-)

(GCS : グリーン・コンピューティング・システム)

本施設の役割

超低消費電力、高性能、太陽電池で駆動可能な次世代マルチコア・メニーコアプロセッサのハードウェア技術、ソフトウェア技術、サーバ・情報家電・ロボット・自動車等への応用技術を研究開発する**産学連携研究施設**

特徴

国際学会等を実施し、先端技術開発に向けた人材育成を行う機能を付随。

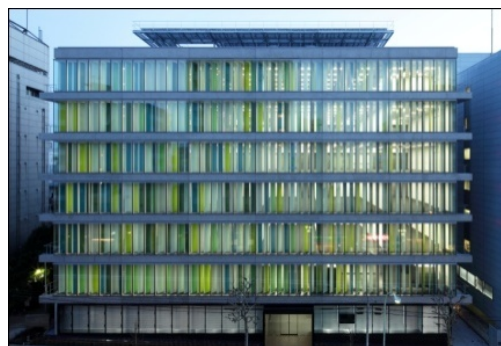
企業研究室と大学の研究室を施設に同居させ、産学の共同研究を促進。

企業研究室はセキュリティを重視、大学の研究室は扉をガラス張りとし、

複数の研究室を同居させ、共同研究を促進

交通量の多い早稲田通りに面し、また、公共交通機関(地下鉄、バス)の駅から

徒歩1分以内のアクセスが便利な場所に設置することで、研究者の交流を促進。



建築面積 755平米
延床面積 5155平米
基礎免震 8階
現在6社がフロアに

- 経済産業省 「平成21年度産業技術研究開発施設整備費」
- **太陽電池でサーバを動かしてしまおう**

総合人文科学研究センター(RILAS, 2012-)

120年余の人文科学研究の歴史を持つ文学学院のもとに設立

- 大学院教育と連動した若手研究者の育成
- 海外からの研究員の受け入れ
- 講演会やシンポジウムなどの国際的な研究交流の促進
- 社会からの要請に応じた受託研究・共同研究の受け入れ



学際的で総合性の高い13の研究部門を設置

現代日本における「信頼社会」再構築のための総合的研究

早稲田大学比較文学研究室

国際日本学共同研究部門

イメージ文化史

グローバル化社会における多元文化の構築

東アジアの人文知

トランスナショナル社会と日本文化

前近代東アジア世界における歴史・社会・文化の研究

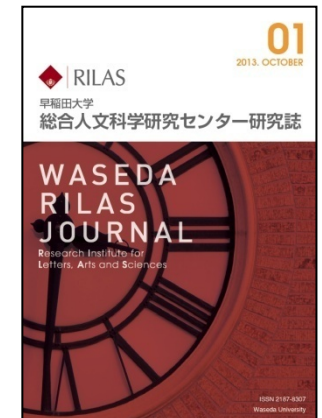
社会の複雑化・階層化の史的パースペクティブ

現代社会における危機の解明と共生社会創出に向けた研究

知の蓄積と活用に向けた方法論的研究

行動・社会・文化に関する多角的アプローチ

ヨーロッパ基層文化の学際的研究



私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(2014-)
「近代日本の人文学と東アジア文化圏
—東アジアにおける人文学の危機と再生」

研究大学強化促進事業 (2013-)

方針1. 研究の組織化: チーム型、組織型研究の拡充・強化

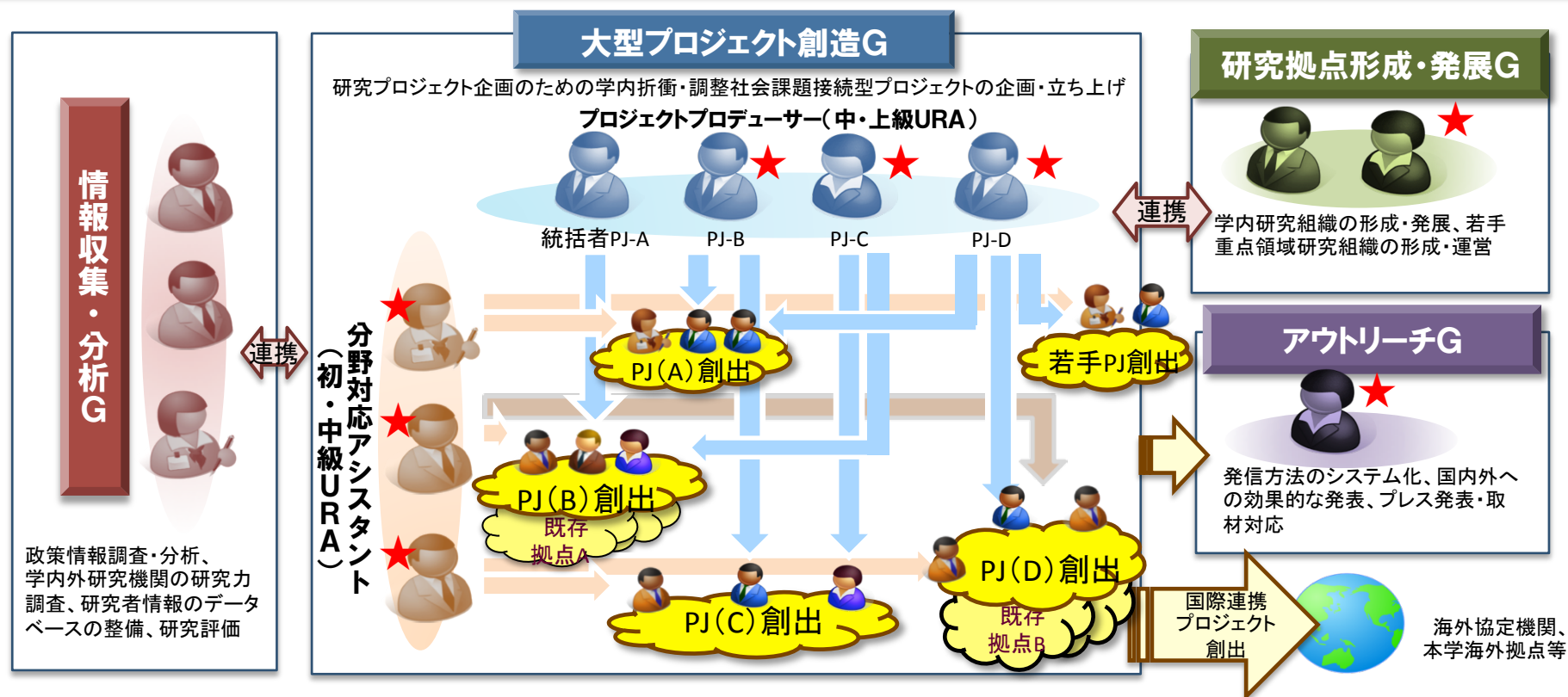
強みのある研究領域を中心に多分野研究者の協働による研究活動を促進し、集団としてのプレゼンスを向上させる。幅広い年代で、独創性と生産性の高い研究者が集積する競争的環境を整備する。

方針2. 研究指向の展開: 社会の課題と結び付いた分野への新たな挑戦

社会に内在する根源的な問題を掘り起し、それらの複合課題に対して学内外の力を結集する研究チームを組織して課題を解き、社会の未来へと繋げる大型研究(社会課題接続型研究)に挑戦する。国内外の企業・独法等研究者の参加を促す人事制度の整備、社会課題接続型研究に博士学生・ポスドクが参画する仕組みの強化と実践知人材の輩出などに取り組む。

方針3. 国際化推進: 国際共同研究への一層の推進、国際人材の活用

国際共同研究の更なる推進のためのインセンティブを整備する。戦略的に在外研究を促進する新在外研究制度やダブルアポイントメント制度を制定し、また外国人研究者がチーム型研究に参画しやすい仕組みや支援体制を整備する。



早稲田大学のリサーチアドミニストレーションシステム

